

(様式1) 実践事例

学校名	本宮市立本宮第二中学校	校長名	武藤 成也		
住所	本宮市荒井字団子森 28 番地	児童生徒数	297	学級数	11
TEL	0243-33-3235	ホームページアドレス	http://www.motomiya.gr.fks.ed.jp/		

「わかる・できる」を実感できる授業の実践を通して

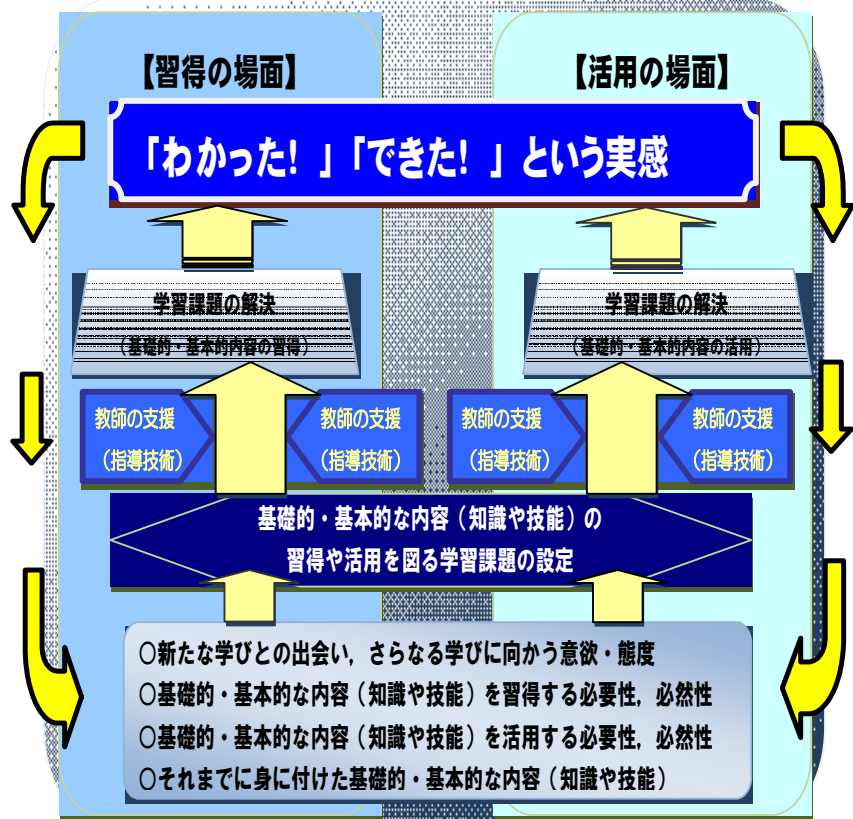
1 少人数指導の計画

【目指す生徒像】

学ぶことの意義を実感しながら、主体的に学習に取り組む生徒

○各教科において、「習得をする場面」と「活用を図る場面」を明確にした上で、以下の手立てを講じていく。

- ①基礎的・基本的な内容の明確化
 - ②学習課題設定の工夫
 - ③効果的な支援の手立て(指導技術)の工夫
- そして、教員相互による指導方法等の学び合いのため全員が2回以上の研究授業を行い、少人数指導を含めた授業実践力の向上を図る。



2 実践の概要

- (1)教員の指導力向上を図るため、KJ法を用いた授業研究会を実施するなど校内研修の充実に努めている。
- (2)少人数のよさを生かし、全校体制で学力差に応じるため、年間10回(5教科各2回)の基礎学力テストを実施している。これは指導効果を上げるための工夫として、教科担任が基礎的・基本的な内容の問題を準備し、朝の学活前の10分間(月曜～木曜は問題プリントを学習、金曜にテストを実施)、担任の指導のもと全学級で実施している。



3 実践の成果と課題

- ワークショップ型の事後研究会では、参観者の気付き等を反映させ、授業を多角的に分析し、全教員が課題を共有することができた。また、前期後期の2回外部講師を招聘し、「習得」と「活用」の関係性などについて研修を深め、教員の意識改革と指導力向上のための充実した実践ができた。
- 基礎学力テストは、学校行事や定期テストの合間を埋めるような形で、年間計画に計画的に位置付け、常に次の目標をもたせて学習に取り組めるように実施している。そのため学習への意欲付けに効果的ではあるが、「定着確認シート」の活用など、学力向上により効果的なテスト問題の作成に努めていかなければならないと考える。

事後研究会で、グループ協議の結果を、班ごとに発表する場面